

森の温泉～駒の湯通信(応援団・助っ人編)



東京の大学生の栗川さん(栗ちゃん)が駒の湯の歴史をまとめるために、関係者への調査、資料の収集などをし、通信、パンフレット、入湯証明書などの印刷の発注なども手伝ってくれています。他にも横倉さん、芳賀さん、金澤さんや他の人とのつながりもでき、少しずつ輪が広がっています。

栗ちゃんはお墓掃除も亡くなった従業員さんのお墓参りも取材の殺到する慰霊祭も一緒にいてくれました。いつも二人だったので心強く感じました。有難い出逢いだったと感謝しています。血はつながらないけれど、自分たちを手助けしてくれる人たちがいることが有り難いことだけに、彼らにとっても、駒の湯での活動が大事な体験になるよう、そして、その絆が、お客さんや他の仲間にとってもより良いものにと願っています。

応援団を結成する時にも協力してくださった佐藤光平先生や昔からのお客さんである村上さんご家族、木札を作成してくれる龍一さん、呼びかけ人になってくれた青木洋介さんたち応援団員にずっと来てくれているメンバー以外にも、様々な人が様々な応援をしてくれています。木の屋石巻水産美里工場で12月に出張そば屋を仲間で出店しました。



ボランティアに来てくれている鈴木誠さんの縁で木の屋石巻水産のくじらカレーをお店に置いています。『蘇るサバ缶』を執筆された須田泰成さんと杉田龍彦さんたちに駒の湯400年誌の作成を応援いただいています。



宮崎さん夫妻から400年のお祝いに駒の湯のオリジナルラベルのビールをいただきました。記念誌のお祝いに皆で乾杯出来たらうれしいです。



阿含宗の方々にお参りいただきました。また、お参りに来てくれたマリオさんはるちゃんや音jazz鳴夜(おじゃずなよ)の渡辺さんから音楽を通じて元気をいただいています。遠藤さんやれなぼん、自然学校の子どもたちが来てくれるのも楽しみです。さまざまな出逢いに感謝です。

ジオラマは地区の三世の金澤大輔さん、ドローン空撮は株式会社ドリームズカンパニーの鈴木亮さん(Wifiも提供)のご協力です。模型は齊藤さんが作ってくれています。



貢さん、岳美さんや細倉鉦山、栗電の関係者の方たちからも昔の写真や資料の提供いただいています。店内は土井さんが常時写真展を、常連の佐々木さんや地区の先輩たちに写真をいただき、展示しています。嘉郎さん、オサムさん、秀紀さん、健司さんほか築高出身の方に熊谷さん、鈴木さんにも応援いただきました。



ガーデニングはおしんこどんが本格的に始めてから、宮崎さん夫妻、銀ちゃん夫妻たちが持ち込みで作ってくれています。くりこま絆の森の植樹は砂防ボランティア協会、(株)宮城建設、栗原市ジオパーク推進協議会で、地区でもファーム千葉さんや熊谷さんも加わってくれました。栗駒の自然を守る会は日ごろの手入れや春の植樹会を開催してくださっています。また、日頃の作業は中野さん、師匠、正昭さん、京子さん、誠さん、早苗さん、でださん、ふーちゃん、荒さん、昂さん、将さん、愛ちゃん、毅ちゃん、まきちゃん、亜紀子さん、昌ちゃん外たくさんの方に手伝ってもらっています。楽しんで作業してもらう事が基本なので作業は少しずつですが、自主的にしてもらっています。



何もなくなつた被災地だからこそ、一からの作業が多く、お金と労力が必要ですが、仲間の知恵と手助けで、新たに何かを作り上げる 作業を楽しんでいきたいと思っています。

応援団員を募集中です。是非、ご参加ください。



komanoyu@komanoyu.net

駒の湯温泉 湯守 菅原昭夫